

【会情報】

【会員企業ご訪問：Vol. 157】

佐原化学工業株式会社（八尾支部）

今回は西日本プラスチック八尾支部会の佐原化学工業株式会社の経営戦略室 取締役室長の柴畑 康司様と営業・品質管理部 品質管理グループ リーダーの忠島 祐也様を訪ねました。

本社住所	八尾市竹渕4丁目142番地
電話	06-6706-1380
FAX	06-6708-9300
資本金	1,000万円
創業	1967年4月
設置成形機	ダイレクトブロー成形機：14台 2軸延伸ブロー成形機：3台 射出2軸延伸ブロー成形機：11台 プリフォーム専用射出成形機：3台
主な製造品	医薬用アンプル、工業用ボトル、化粧品・食品用の容器/キャップ等



柴畑 康司 取締役室長（左）
忠島 祐也 リーダー（右）



本社工場外観

創業のきっかけ

1960年頃、創業者で現相談役の佐原 典嘉がブロー成形工場に配送のアルバイトに従事した事が全ての原点です。その工場は1966年に倒産してしまったのですが、当時の取引先から要請もあり、成形機を1台持ち帰って自身で成形を始めたのが創業のきっかけです。1968年には弟で現在は代表取締役社長を務めている佐原 博も加わり、兄弟が力を合わせて会社組織に成長させました。

自社での製造品について

現在、当社がメインとしている製造品は医薬用アンプルや工業用ボトル、化粧品、食品及び飲料容器などです。以前は突出して多い製品はなかったのですが、近年は化粧品容器の樹脂化やインバウンド需要の拡大もあり化粧品関連容器が多くなっています。

当社は技術にも自信があり、2製品の技術について特許を取得しています。1つ目はプラスチック製アンプルの製法で、丈夫でありながら少ない力でも『パキッ』と蓋

部分を折って開ける事ができます。

もうひとつは、プラスチック製ラムネ瓶の製法です。ラムネを飲むときを想像して頂くと分かりやすいのですが、最初ラムネはビー玉で蓋をされていますが、蓋を開けた後、ビー玉は上部と下部の間にある「くびれ」部分に留まっていると思います。この「くびれ」部分を作る技術が当社の特許となっています。つまり、プラスチック製ラムネ瓶で上部と下部の間にくびれがある容器は当社の製品という事です。



医療用アンプルの製造

自社の強み

当社の強みは『結束力』です。例えば、「緊急の納期対応をして欲しい」というような要望も結構多いのですが、可能な限り応えており、その対応力は従業員にあると思います。当社は従業員 60 名で 3 交代・24 時間稼働を行っていますが、これまで



プラスチック製ラムネ瓶の製造

積極的な採用活動を実施していません。理由は採用をする必要がなかった為です。有難いことに当社の従業員は勤続年数が長く、中には親子 2 代で勤務しているなど、親子や兄弟、親類、友人を伝って入社している従業員が多くいます。ある 2 代目の従業員も将来は子供を働かせたいと話しており、ひょっとすると祖父、父親、孫と 3 代に亘っての勤務になるかもしれません。また、従業員の年齢層が 10 代から 70 代まで各年代にバランスよくいる事も強みの一つです。このような事の積み重ねが、当社の強みである『結束力』に活きていると思います。

先述の通り積極的な採用活動は行っていませんが、2019 年 12 月に初めてベトナム人技能実習生の受入れを行いました。実習生はもちろんですが、受け入れる当社も初めてなので少々不安はありましたが、実習生に仕事を教えるという作業が何よりも社員の成長に繋がっており、社員自ら指導マニュアルを作成したり、勉強会を開催したりと、想定していた以上の効果が表れています。また、実習生達が朝から元気よく挨拶をしてくれるので、全体的に挨拶の習慣が定着してくるなど、会社全体の活気にも繋がっていると実感しています。さらに、本年 4 月からは社会貢献のつもりで『たまがわ高等支援学校』の生徒さんを新卒採用しましたが、毎日真面目に仕事に取り組んでくれる姿を見ていると、これも有難い事に想定外な波及効果を感じています。

現在の課題

現在の課題は人材育成だと考えています。

具体的には、1つ目は「責任感」です。もちろん製造品への責任感は皆持ってくれていますが、この責任感とは「部署毎の責任感」です。以前は〇〇部等の部署がなく、「全員が製造担当」でしたが、現在は製造部や品質管理部等の部署を新設し、従業員はどこかの部署に所属するようにしました。その部署毎に各自が担当者責任を認識することでこれまでの『家族的経営』だけでなく、仕事に対する『厳しさ』も身に着け、より細やかなアイデアや改善を生み出していけるようにしたいと考えています。

そして次に『技術力の向上』です。しかし、射出成形と比べてブロー成形は検定や講習が非常に少ない事も技術力向上の課題だと考えます。

今年から通信教育のブロー成型技術者養成講座の受講を始めましたが、実際の成形機を用いた講座は殆どないと思います。早く社内に高度な成形技術者を養成し、外部に頼らなくても技術の獲得や継承が出来るような組織の実現を目指します。

協会への要望点

先ほど課題でもお話ししたのですが、技術を学ぶ為のブロー成形講座が殆どありません。その為、ブロー成形の人材育成講座をもっと増やして頂きたいと思っています。特にダイレクトブロー以外、例えば延伸ブローの講座を開設して頂ければと思います。また、当社では今後技能検定も受検させたいのですが、ブロー成形の技能検定学科講座も是非開設して頂きたいと思っています。

※ 会社を訪問して ※

人材不足が叫ばれる製造業界で、積極的な採用活動をする必要がないという事に驚きました。その理由が「従業員の定着率の高さ」で、中には祖父から孫まで3代続けて勤務する可能性があるというお話からも、従業員の会社に対する信頼度の高さを感じました。さらに、それが会社の強みである『結束力』へ繋がっている事が素晴らしいと思いました。

◎ありがとうございました
取材：事務局 山下・大杉

※本記事記載の情報については、2020年4月7日現在のものとなります。

掲載希望の方は

事務局(06-6538-6100)までご連絡ください。